

中長期の経済財政に関する試算（2022年7月）のポイント

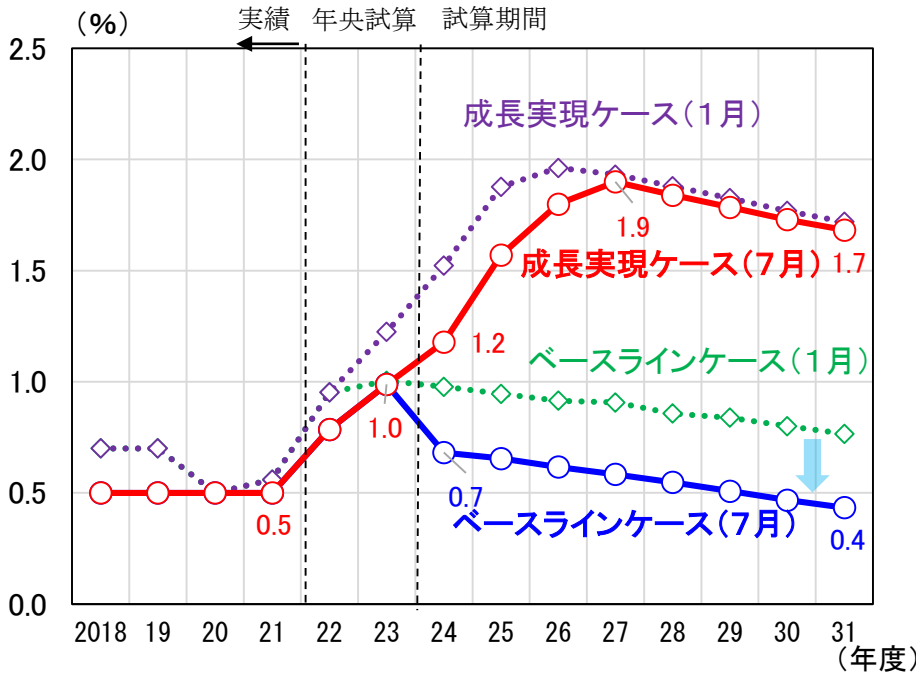
＜中長期的なマクロ経済の姿＞

- ・成長実現ケースでは、潜在成長率が着実に上昇し、実質2%程度、名目3%程度の成長率が実現。この結果、名目GDPが概ね600兆円に達する時期は、2025年度頃と見込まれる。
- ・ベースラインケースは、近年の実績を踏まえ、潜在成長率を下方改定。

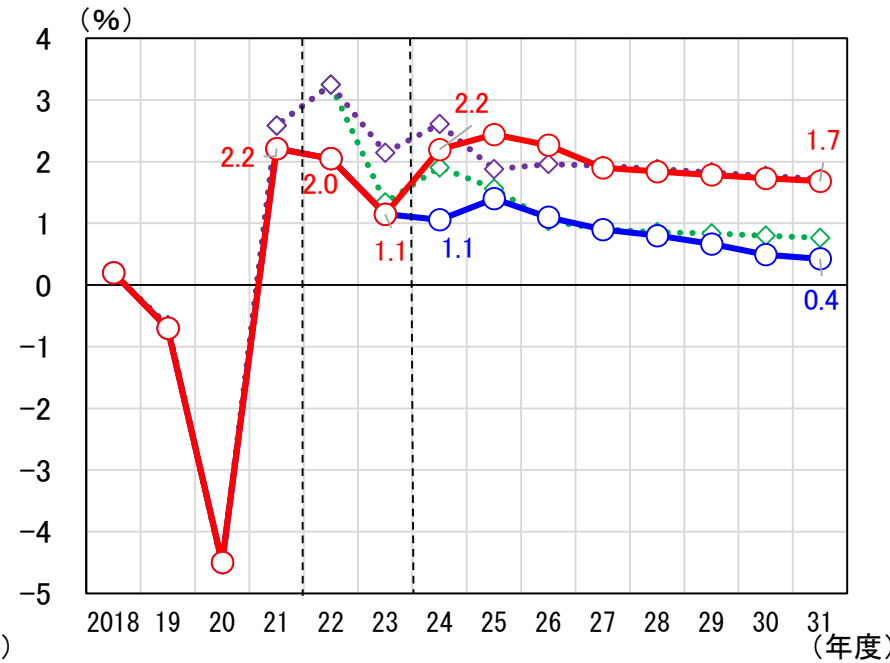
＜中長期的な財政の姿＞

- ・PBは、成長実現ケースでは、歳出自然体の姿で2025年度に対GDP比で▲0.1%程度の赤字となり、黒字化は2026年度。これまでの歳出効率化努力を継続した場合、黒字化は2025年度と1年程度の前倒しが視野に入る。一方、ベースラインケースでは赤字が継続。
- ・公債等残高対GDP比は、成長実現ケースでは試算期間内において低下し、ベースラインケースでは試算期間後半に上昇することが見込まれる。

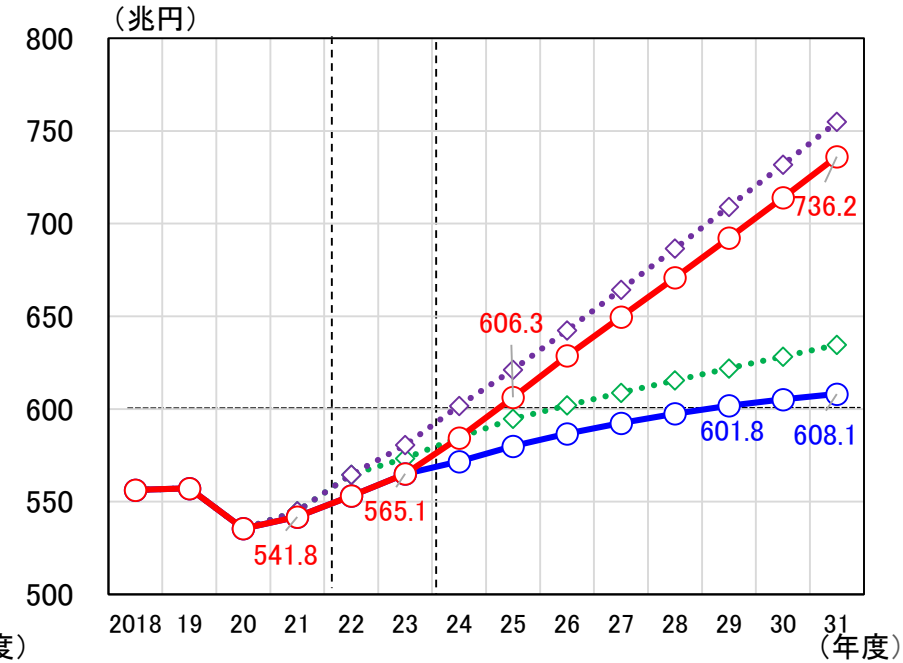
潜在成長率



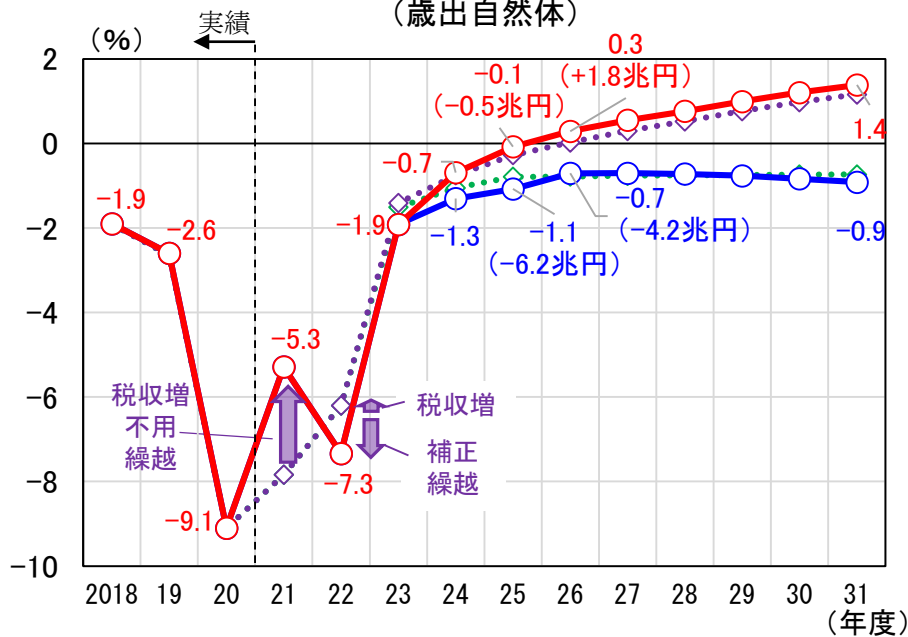
実質GDP成長率



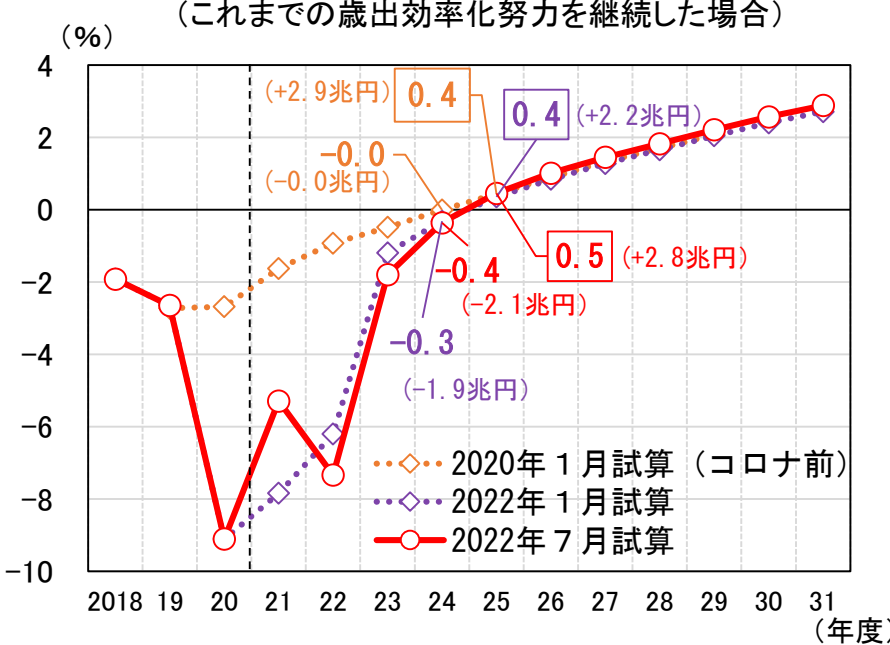
名目GDP(水準)



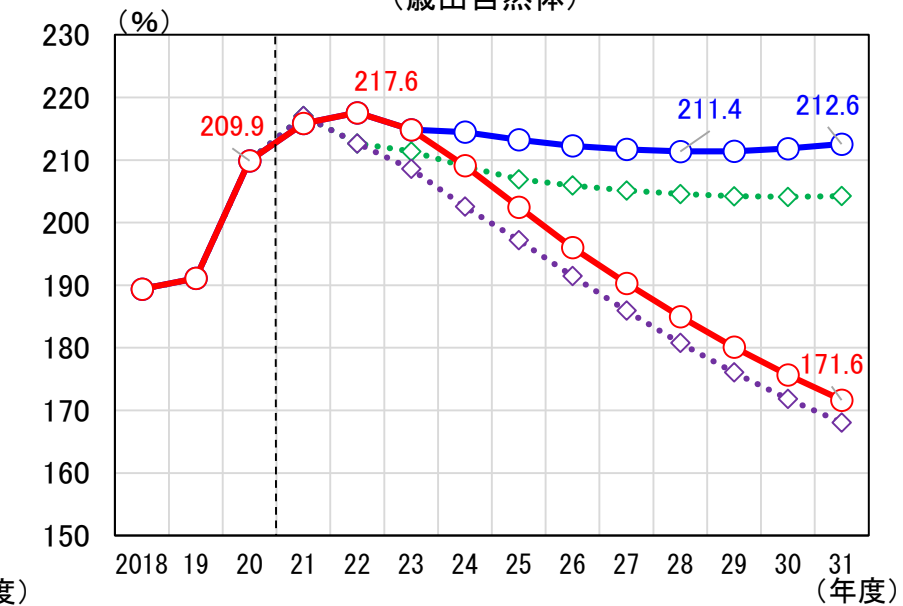
国・地方のPB対GDP比 (歳出自然体)



国・地方のPB対GDP比 (成長実現ケース) (これまでの歳出効率化努力を継続した場合)



国・地方の公債等残高対GDP比 (歳出自然体)



(備考) 歳出効率化努力とそれによる経済への影響を加味した場合のPB改善効果を1年当たり1.3兆円程度と想定。